

目次

はじめに

第 I 部 日本におけるマルクス主義法学

第 1 章	マルクス主義法学の成立と発展	2
1	戦前のマルクス主義法学	3
2	パシュカーニス『法の一般理論とマルクス主義』	7
3	日本におけるマルクス主義法学の創始者	19
第 2 章	占領下のマルクス主義法学	22
1	戦後の法学者たちの状況	22
2	民主主義科学者協会の結成	23
第 3 章	法社会学論争	25
1	生ける法と階級意思としての法	26
2	『市民社会と民法』をめぐる論争	29
3	『法社会学の諸問題』における論争	34
第 4 章	戦争を経験した法学者達	39
1	市民法学の担い手	39
2	マルキシズム法学への回帰	47
3	所有権法の理論	52
4	実践的市民法論	55
5	唯物史観法学と人間の尊厳	61
第 5 章	戦後の法学	69
1	日本の市民社会と近代法	69

2	法社会学におけるブルジョア法批判	73
3	2つの法体系論	86
4	マルクス主義的企業法理論	92
5	核心としての団結権理論	107
第6章	現代法論とマルクス主義	119
1	現代法への関心の高まり	119
2	民科法律部会における現代法論	121
3	資本主義法の歴史区分	122
第7章	法と経済の一般理論	131
1	法の上部構造の反作用	131
2	社会規範の実現の意味	133
3	経済的關係と法的關係の相互關係	137
4	歴史的な法体系の内的編成	141
5	社会構成体と法の上部構造	142
第8章	社会認識と法	146
1	社会關係に規定される契約	146
2	マルクス主義に基づく社会認識と法律關係	147
3	社会構造と合意	151
第9章	マルクス主義法学に対する批判	152
1	批判の要点	152
2	民科法律部会の議論に対する批判	154
3	民科法律部会の性格と行動	160
第10章	国家の公共性	162
1	国家の公共性とは何か	162
2	日本における公共性論	165

第11章	福祉国家論	167
1	国家独占資本主義論からの福祉国家論批判	167
2	経済システム論不在の福祉国家論批判	171
3	21世紀の福祉国家論	173
第12章	新現代法論	178
1	『法の科学』の展開	178
2	現代日本法のトータルな分析	179
3	3つの視点	181
4	新現代法論の総括	183
5	豊かな社会の出現と私法学の課題	186
6	現代社会における法の課題	188

第Ⅱ部 マルクスと法学

第1章	マルクスとエンゲルスにおける国家と法の理論	192
1	マルクスとエンゲルスの法律観の3つの時期	192
2	社会構成体の分析と科学的に正しい方法	193
3	マルクス主義国家・法理論の形成	197
4	マルクス主義国家・法理論の展開	207
5	ゴータ綱領批判	212
6	エンゲルスによる唯物史観の発展と法学的世界観批判	219
第2章	商品交換と法	234
1	マルクスの言う「経済的關係を反映する意思關係」	234
2	商品形態から法形態の分析へーパシュカーニスのこだわり	235
第3章	マルクスと学問	240
1	実践と統一された学問	240
2	ポパーによるマルクスの社会変革の評価	241
3	シュムペーターによるマルクスの学問の評価	243

- 4 マルクス主義の有効性 244
- 5 21世紀のマルクス研究の課題 246
- 6 まとめ 248

第Ⅲ部 市民社会とマルクス主義

第1章	市民社会概念の歴史	250
1	はじめに	250
2	日本における市民社会概念受容の特殊性	251
3	市民社会概念の変化	252
4	Bürgerliches Gesellschaft 概念の特殊性	254
5	市民社会の概念史	255
第2章	マルクスの市民社会論	257
1	市民社会史観と階級社会史観	257
2	マルクスの重層的市民社会論	259
3	協同社会としての市民社会論	270
第3章	現代の市民社会論	276
1	西欧の現代的市民社会論	276
2	日本における市民社会論	285
第4章	市民社会論と市民法	305
1	戦後の市民社会論と法	305
2	日本の市民社会の変化と市民法論	310
3	近代市民社会の現代市民社会への変容	313

おわりに

あとがき
文献一覧
索引